専大スポーツ
No. 393
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web（http://sensupo.com/）でも大会結果を配信しています

## 全日本卓球選手権

# 田添、安藤 自己最高ベスト8

8強入りを決め、両腕を高々と掲げる田添

## 男子ダブルス 及川・三部、木村も 混合ダブルス

全日本卓球選手権が1月14～20日、大阪市・丸善インテックアリーナ大阪で開かれた。シングルスで男子の田添響（商4・希望が丘高）、女子の安藤みなみ（商4・慶誠高）がともに自己最高となる8強。男子ダブルスでは及川瑞基（商3・青森山田高）・三部航平（商3・青森山田高）ペア、混合ダブルスでは木村香純（経営1・四天王寺高）・上村太陽選手（大阪桐蔭高）もベスト8入りした。

田添は勝てばベスト8入りとなる6回戦で高木和卓選手（東京アート）と対戦。強烈なバックドライブを駆使して第2ゲームを奪うと、勢いに乗って4―1で制した。続く準々決勝で大島祐哉選手（木下グループ）に敗れたものの、「今までやってきたことは出すことができた」と胸を張った。

安藤は全日本ベスト8入りを目標としていたが、これまであと1歩及ばず悔しい思いをしてきた。トーナメントを勝ち上がり、迎えた6回戦は2年前にベスト8入りを阻まれた橋本帆乃香選手（ミキハウス）と対戦。我慢の展開となったが、多彩なアプローチで仕掛け、4―2で勝利した。準々決勝で伊藤美誠選手（スターツSC）に屈したが、「レベルアップできたと思う。良い結果で終えられた」と納得の表情だった。

男子ダブルスの及川・三部ペアは、準々決勝で前回大会優勝の水谷隼・大島祐哉（ともに木下グループ）ペアに敗れたが、第1ゲームを先取するなど確かな手応えをつかみ、及川は「自信につながった」、三部は「今まで以上にダブルスに力を入れて取り組んだシーズンだったので、結果が残せてうれしい」と語った。（飛田翼・文4、撮影＝石崎愛奈・法4）

バックハンドで揺さぶりをかける安藤＝準々決勝

健闘した及川（右）・三部ペア＝準々決勝

## 三部Tリーグに

三部航平がTリーグの岡山リベッツと契約。安藤みなみ（トップおとめピンポンズ名古屋）、田添響（木下マイスター東京）に続く3人目の専大生Tリーガーとなった。

三部はミスの少ない安定したプレーが持ち味で、昨秋の全日本大学総合卓球選手権ではベスト4入りした。「世界最高峰とも言われるリーグに参加できることを光栄に思う。これを機にさらに上のレベルへ飛躍できるよう頑張りたい」と意気込む。（村山健人・商1）

## ノルディックジュニア世界選手権 U23 馬場が5位入賞

スキー部の馬場直人（経営4・中野立志館高）＝写真＝がFISノルディックジュニア世界選手権（1月21～25日、フィンランド・ラハティ）のU23クロスカントリー競技30キロクラシカル（マススタート）で5位に入賞した。タイムは1時間17分31秒2で、1位とは約12秒差の素晴らしい走りだった。

馬場は1月に行われた国内大会でも上位に入賞しており、好調なシーズンを過ごしている。2月にオーストリアで行われるFISノルディック世界選手権のクロスカントリー競技に日本代表として出場することが決定。初出場となる世界選手権に向けて、「初の大舞台となるが緊張せず、自分の力を出しきり、20位以内を目指して頑張りたい」と意気込んだ。更なる飛躍に期待がかかる。

■全日本クロスカントリースキーレース【一般男子15キロフリー】初優勝【1・5キロスプリントフリー】4位

■全日本スキー選手権クロスカントリー競技【パシュート15キロフリー】1位【マス10キロクラシカル】2位

（池村友輔・文1）

## バスケットボールWリーグ 千葉、渡部がデビュー

千葉　歩

渡部友里奈

バスケットボール部女子の千葉歩主将（経済4・東京学館新潟高）が新潟アルビレックスBBラビッツ、渡部友里奈（文4・昭和学院高）がデンソーアイリスに入団。2人は卒業前からプレーできるアーリーエントリー選手として1月からチームに合流し、Wリーグ（女子日本リーグ）でのデビューを果たした。

千葉主将は3ポイントシュートなどが得意なフォワード。「得意なプレーを積極的に出していきたい」と語っていたが、1月27日の東京羽田ヴィッキーズ戦では25分出場で14得点と早くも活躍。渡部はドライブが武器のガード。デビュー戦（1月19日、トヨタ紡織戦）で4得点を挙げ、「スピードを生かしたプレーをしていきたい」と語った。（江川このみ・文1）

## スピード部門3位 リレー 0秒15差の2位

日本学生氷上競技選手権＝1月5～7日、栃木県・日光霧降スケートセンター

全7種目の順位に応じて与えられるポイントの合計を競う学校別の対抗戦でスピード部門3位に入賞した。

初日、500メートルで石川斗来（経営2・白樺学園高）が3位。ほかにも2人が入賞し、ポイントを稼ぐ。

最終日に行われた2000メートルリレーは石川、嶋田英爾（経営3・白樺学園高）、岩佐理央（経営1・帯広南商高）、辻本一史主将（経営4・帯広農高）の4人が出場。バトンパスに自信を持つ専大は流れるようにバトンをつなぎ、リンクレコードを更新する2分23秒07。優勝した日大にわずか0秒15及ばなかったが、会心の滑りだった。

リレーでスパートをかけるアンカーの辻本＝撮影・石崎

辻本主将は「この4年間でトップレベルの選手に食らい付けるまで成長することができた。前嶋孝監督には言葉で表せないくらい感謝の気持ちでいっぱい」と恩師への感謝を口にした。（飛田）

## 初出場三澤 堂々の演技 フィギュア

フィギュアスケート部門に三澤日向子（法2・横浜清陵総合高）が初出場。女子7、8級クラスで12位に終わったものの堂々の演技を見せた。

ショートプログラムを16位で終え、迎えたフリースケーティングは手作りの赤と緑の衣装で登場した。映画『アメリ』の劇中歌に合わせ、豊かな表情、繊細な演技で会場を沸かせた。冒頭のループジャンプを成功させると流れに乗ってすべてのジャンプを成功させた。

三澤は「初めての舞台で緊張したが、自分にできることを精いっぱいやろうという気持ちで臨んだ。完璧ではなかったが、一度も転倒しなかったことはよかった」と語った。（石崎＝写真も）

しなやかな演技を披露した三澤

## 野口Bリーグに

野口　夏来

男子の野口夏来（経済4・福岡大附大濠高）が、Bリーグの群馬クレインサンダーズ（B2東地区）に特別指定選手として入団した。203センチの長身を生かしたプレーが特徴で「まずはチームに慣れて求められていることを理解したい」と話した。（岡本真凜・経営1）

## 1部復帰へ自信 野球部始動

昨秋は東都大学野球2部リーグ戦を制したが、入れ替え戦で敗れ、1部復帰はならなかった専大野球部。今季に懸ける思いは強く、伊勢原球場には選手たちの力強い声が響き渡っている。

昨秋の最優秀投手・前田敬太（商3・中部商高）らが新チームでも主力となる。「戦力を維持したまま新シーズンを迎えられるのは大きなアドバンテージ」と新主将の平湯蒼藍（経済3・海星高）。課題だった立ち上がりは、今後の合宿やオープン戦で解決を目指し「今季はより質の高い野球が展開できる」と自信をのぞかせる。

平湯は「入れ替え戦では自分たちの野球ができずに悔しい思いをした。今季は圧倒的な勝ち方で2部リーグ優勝、そして1部復帰を目指したい」と意気込む。

（八代哲・経済2）